

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道登別明日中等教育学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒059-0016
北海道登別市片倉町5丁目18-2

E-mail akebi@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.akebi@hokkaido-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 206名 女子 251名 合計 457名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

ユネスコスクールであることとESD活動は、本校が教育目標に掲げる「高い知性」、「豊かな人間性」、「健康な心身」、「郷土愛と国際性」を実現する上で、開校時より重要な役割を果たしている。

その中でも本校は、①「国際理解」と②「自国文化理解」に特に焦点を当てるとともに、③「食糧」、④「郷土」、⑤「共生社会」、また⑥「その他」の学習活動に取り組んでいる。

①「国際理解」に係わる活動の例

- ・イングリッシュキャンプ(2回生、7月)…1泊2日の間英語だけを使って生活しながら、自己表現や異文化理解の能力を高められた。
- ・語学研修(3回生、12月)…福島県ブリティッシュヒルズにて2泊3日の英語漬けの環境の中、より高いレベルの英語でのコミュニケーション能力を育んだ。
- ・海外見学旅行(5回生、12月)…アメリカのワシントン州とカナダのバンクーバーを訪れ、現地の大学生とのディスカッション、ホームステイ、姉妹校訪問などを通して、異文化理解と国際的なコミュニケーション能力を高められた。

②「自国文化理解」に係わる学習活動の例

- ・英語で日本紹介（2回生、5月～5月）…海外の人に伝えたい日本文化の様々な側面について英語での発表を用意し、アメリカの姉妹校生徒が来校時に披露した。
- ・世界と日本の関わり調べ（3回生、1～3月）…各班が選んだテーマにもとづき、世界と日本の関連性について比較・分析し、発表した。

③「食料」に係わる学習活動の例

- ・課題研究（4回生、5回生、通年）…「世界の食糧問題」をテーマに、各班で設定した課題について調査や分析などを行い、成果を発表した。

④「郷土」に係わる学習活動の例

- ・地域ウォッチング（1回生、8月～10月）…自分たちが住む登別について町の特徴や魅力を調べ、他の人に分かりやすく発表した。

⑤「共生社会」に係わる活動の例

- ・異年齢交流活動（全校、通年）…中高一貫校の特徴を生かし、文化祭や体育祭をはじめとして、異年齢での交流や協力の機会を持つことができた。
- ・地域の社会福祉協議会と連携した活動（全校、通年）…生徒会を中心に、募金活動やペットボトルキャップ回収、書き損じハガキ回収などを行った。

⑥その他

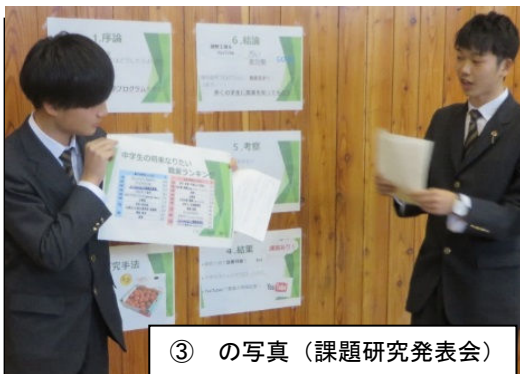
- ・文化祭ユネスコ展示（全校、7月）…毎年の文化祭で教室2つを使った展示スペースにて、世界の諸問題に関する展示物を作成・展示した。



① の写真（5回生海外見学旅行）



②の写真（英語で日本紹介）



③ の写真（課題研究発表会）



⑥の写真（文化祭ユネスコ展示）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(課題解決力、情報発信力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(昼休みや放課後の生徒会活動や委員会活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特定の教材はない。本校ではコンピュータとインターネットを学年全体の生徒が一度に使用できる環境が整っており、多くの場合、学校で作成したワークシートで活動の趣旨や手順などを説明した後は、生徒は各々必要な情報を見つけて活用している。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の ESD 活動の多くは、全校行事、各学年の行事、総合的な学習の時間での取組として位置づけられている。その他にも、教科や科目の単元としての学習活動や、学校設定科目としての取組（4、5 年生「課題研究」、生徒会活動として生徒が自主的に取り組んでいる取組（文化祭「ユネスコ展示」、体育祭での異年齢交流、ユネスコ有志実行委員会など）もある。いずれの活動についても、担当の年次や分掌や生徒の実行委員会が実施要項や活動予定などを毎年作成した上で行われ、実施後には反省点や次年度に向けての改善点が残され、常に改善が加えられながら実施された。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各活動には年次や分掌の担当教員、生徒により構成される委員会等、明確な担当部署がある。またそれらの活動は行事予定やシラバス等にも明記されており、組織的かつ継続的に実施されている。また、これらの活動や取組は、実施にあたり職員会議等での検討と全体での情報共有を経て実施されるため、担当者が変わっても継続的かつ円滑に実施できている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各活動の評価と成果や課題の検討は、担当部署により行われるが、現在は外部による評価は行われていない。平成 30 年度までの 5 年間の指定を受けている「スーパーグローバルハイスクール」事業では、年 2 回の「運営指導委員会」や、年 1 回の「運営評価委員会」で外部委員による指導・助言を受けており、ユネスコスクールの活動についても、今後は外部からの指導や助言を受けることは有効であると思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

対外的な発信としては、文化祭「ユネスコ展示」コーナーでの展示や、学校公式ウェブサイトでの活動報告、また市内のボランティア団体主催の「高校生ミーティング」や室蘭ユネスコ協会主催「ユネスコ・ユースフォーラム」等において本校の取組について地域住民に広く発信している。校内では、生徒会執行委員会や「ユネスコ有志実行委員会」の生徒が、通信の発行などにより活動の告知や報告を行っている。ユネスコスクールとしての本校の側面は、地域においても広く認知されており、本校を受験する生徒にとっても魅力の一つとなっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

室蘭ユネスコ協会や登別市社会福祉協議会と連携ながら各種のボランティア活動を行っている。また、長年この地域で活動している市民団体「世界食料デー登別大会実行委員会」とも綿密に連携し、地域での募金活動や啓蒙活動に多数の生徒が参加している。さらに、北海道ユネスコ協会、北海道高文連ボランティア専門部、北海道高校ユネスコ連絡協議会などとも連携し、研修会や研究大会への参加や実践発表などを行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

地域や北海道内のユネスコスクールとの交流や協働の機会はあるが、国内の遠い地域や海外のユネスコスクールとの交流の機会はまだ行っていない。また現在はアメリカの姉妹校やオーストラリアの協力校と定期的に交流を行っているため、それ以上に交流を広げる余裕がないのも実情である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

現在5年間の指定を受けているSGH事業で行う取組の大半は、ユネスコスクールとしての取組の目的や育てたい資質や能力が一致している。本校のSGH事業では、「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」の育成を目標に掲げ、それらを16の具体的な能力や資質に細分化し、学校教育活動のあらゆる面を通じてそのような力を育ててきた。H30年度にSGH指定が終了した後も、これまで教職員の間で蓄積されてきた情報や指導の内容や方法は、確実に継承されていくことが期待できる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまで述べられてきた活動や取組は平成30年度にも実施する予定だが、それに加えて以下の3点に取り組みたい。

1. 校内の取組内容の再編成・・・5年間SGH事業として行ってきた各種の取組を、実施の意義、予算面での継続可能性などの観点から検討し、ユネスコスクールまたはESD活動という枠組で再編成する。
2. ESDカレンダーの再編成・・・これまでの本校のESDカレンダーでの活動領域の分類の仕方は、「国際理解」、「自国文化理解」、「食糧」、「郷土」、「共生社会」、「環境」、「教育」、「民主主義」の8つだったが、今後はSDGsを意識した分類方法を検討したい。
3. SDGsを意識した取組内容の拡大・・・より多くのSDGsの分野に取り組みめるよう、既存の取組の見直しや活動領域の再分類、また新たな取組の実施の可能性について模索したい。